

英日翻訳方略体系に基づく 「直訳」「意訳」の訳出分析

山本 真佑花（東京大学） 藤田 篤（情報通信研究機構） 影浦 峯（東京大学）

本研究は、日本学術振興会科研費補助金基盤(S)「翻訳規範とコンピテンスの可操作化を通じた翻訳プロセス・モデルと統合環境の構築」(研究課題番号:19H05660)の支援を受けて行われました。

翻訳品質評価

主観評価表現・・・翻訳品質を評価する際に、評価者の主観的な判断で使用される言葉

西野ら（2021）によって、翻訳業界で使用頻度が高い110個の主観評価表現が明らかになっている。

<上位20個の言葉>

直訳（直訳的・直訳調）、わかりやすい、意訳（意訳的・意訳調）、読みやすい、自然、
わかりにくい、簡潔、不自然、適切、読みにくい、冗長、ふさわしい、丁寧、忠実、意味が通じる、
不明瞭、かたい、原文に引きずられた、正しい、こなれた

これらの言葉の解釈は人それぞれであり、実際の現象は自明ではないことが多い。

→ これらの言葉がどのように訳文に反映されているかを明らかにすることで、作業者間の
コミュニケーションの向上が望めるほか、円滑かつ統一的な翻訳品質の同定にも寄与する

本研究の概要

RQ：プロ翻訳者が「直訳」「意訳」という指示を受けて作成する訳文はどのように異なるのか

英日翻訳方略体系（山本ら, 2023a）を使用して分析

分析のアプローチ

原文：There is a boy climbing that tree. He is going to fall if he doesn't take care.



仮訳：あの木に登っている男の子がいます。彼は気をつけないと落ちてしまいそうです。



仮訳を起点として訳文をブラッシュアップ。
この中に、仕様を満たすための操作が含まれる。

最終訳：あの木に登っている男の子がいます。~~彼は~~気をつけないと落ちてしまいそうです。



英日翻訳方略体系（山本ら, 2023a）の使用

原文：There is a boy climbing that tree. He is going to fall if he doesn't take care.



素朴訳：あの木に登っている男の子がいます。彼は気をつけないと落ちてしまいそうです。

命題の誤りがなく、最低限の品質が担保された訳。一般的にいう直訳に近いもの。



適訳：あの木に登っている男の子がいます。~~彼は~~気をつけないと落ちてしまいそうです。

さらなる品質向上のために書き換えられた訳。

英日翻訳方略体系（山本ら, 2023a）の使用

原文：There is a boy climbing that tree. He is going to fall if he doesn't take care.



素朴訳：あの木に登っている男の子がいます。彼は気をつけないと落ちてしまいそうです。

命題の誤りがなく、最低限の品質が担保された訳。一般的にいう直訳に近いもの。



★ 翻訳方略・・・素朴訳を適訳に書き換える操作

適訳：あの木に登っている男の子がいます。~~彼は~~気をつけないと落ちてしまいそうです。

さらなる品質向上のために書き換えられた訳。

英日翻訳方略体系 (山本ら, 2023a)

Syntactic strategy	
G2	Orthographic change
G1	Substitution
G13	Punctuation change
G9	Modality shift
G11	Addition
G12	Omission
G14	Referential expression change
G3	Word structure change
G5	Phrase structure change
G6	Clause structure change
G7	Sentence structure change
G4	Unit shift
G10	Scheme change
G99	Other syntactic changes

Semantic strategy	
S9	Trope change
S11	Causal change
S14	Reference mood change
S2	Antonymy
S4	Perspective change
S13	Focus change
S12	Ambiguity change
S3	Hyponymy
S5	Abstraction change
S7	Emphasis change
S99	Other semantic changes
S100	No semantic changes

Pragmatic strategy	
Pr1	Locale adaptation
Pr5	Illocutionary change
Pr2	Explicitness change
Pr3	Information change
Pr4	Interpersonal change
Pr6	Coherence change
Pr14	Cohesion change
Pr13	External Information adaptation
Pr12	Register adaptation
Pr15	Readability change
Pr99	Other pragmatic changes
Pr100	No pragmatic changes

☞ 山本真佑花, 藤田篤, 影浦峯 (2023b). 『メタ言語としての英日翻訳方略体系の洗練－実事例と複数人の合議に基づいて－.』 通訳翻訳研究, Vol. 23, 2023. (採択済)

事例の収集

使用した文書

翻訳分野区分	トピック	原文ワード数
金融・経済・法務（金融）	Complaint Letter	340
医学・医薬（医薬）	Travel Epidemiology	1002
工業・科学技術（工業）	Equipment Authorization – RF Device	1334
特許・知財		
その他		

事例の収集手順

1. 素朴訳作成 金融、医薬、工業分野の3文書に対して素朴訳を作成
2. 適訳作成 翻訳会社を通じて、プロ翻訳者に素朴訳から適訳への書き換えを依頼
 - ・ 翻訳指示書で、各文書を「直訳調」「意識調」の2種類にするよう指示
 - ・ 社内評価が特に高く、普段から直訳、意識の訳出傾向がある翻訳者を希望
3. 事例抽出 書き換え結果の中から、表層上の違いがあり、かつ互いに独立に書き換えられたと考えられるものを個別の事例として、文書の先頭から50以上抽出
 - 例) 原文： An incidental radiator may produce byproducts of radio emissions above 9 kHz.
素朴訳： 偶発的放熱器は、9kHzを超える無線放射の副生成物を生成する可能性があります。
適訳： 付帯的放射器は9kHzを超える無線放射を副次的に生成する可能性があります。
4. 誤り除外 適訳への誤り混入および素朴訳の誤り修正（例：上記の赤文字事例）の除外
5. 方略付与 Syntactic strategy、Semantic strategy、Pragmatic strategy のそれぞれから1方略ずつ付与（例：上記の青文字事例に計3方略付与）

分析結果

1. 全書き換え事例数
2. 方略の頻度分布

1. 全書き換え事例数

原文 1～2 パラグラフ分の事例を追加

（結果）完成度の高い「直訳」を作成するには素朴訳に対して多くの書き換えがなされており、その数は「意訳」を超えることもある。

2. 方略の頻度分布

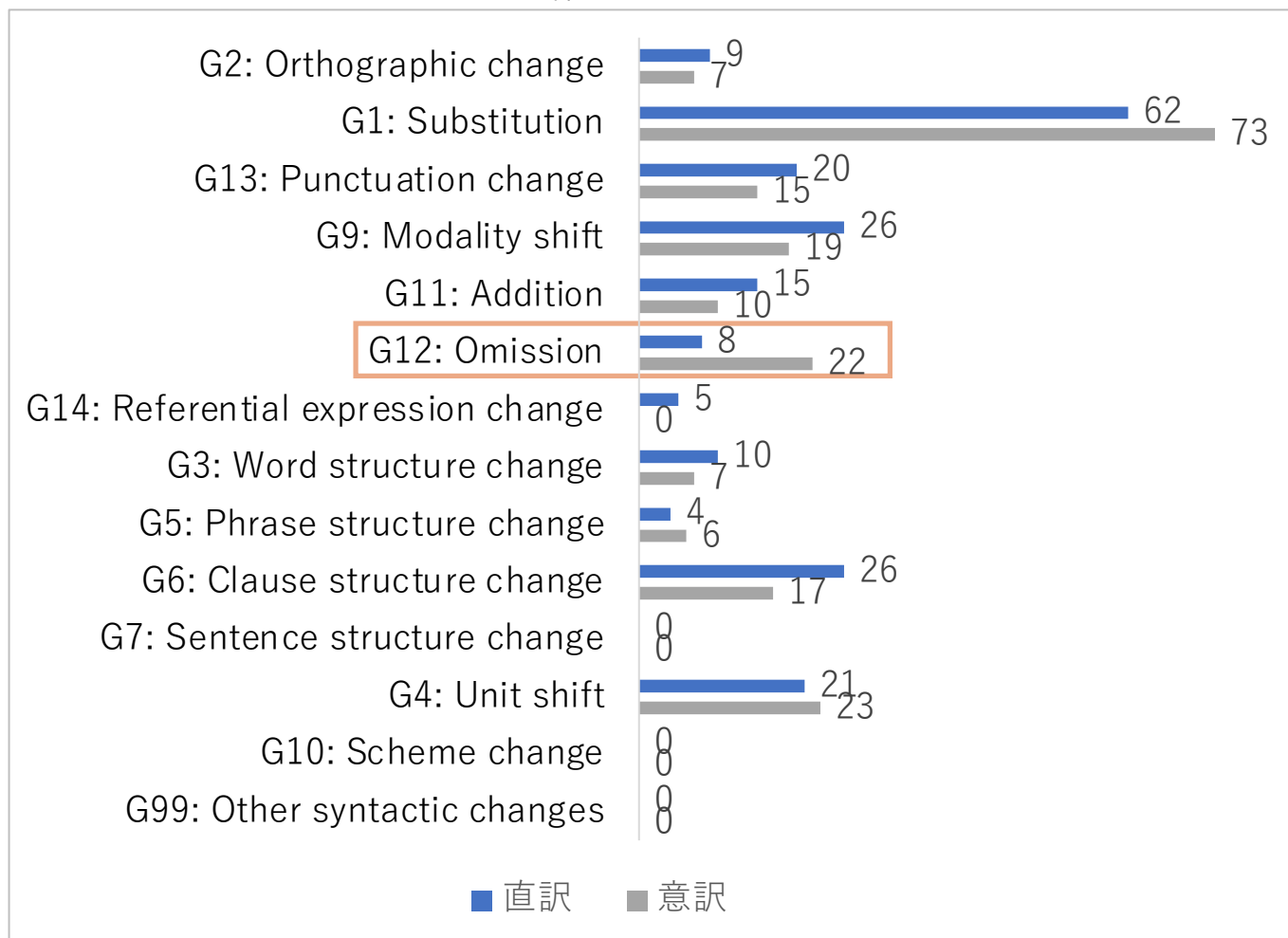
方略グループごとに、

直訳・意識間で出現頻度の差が最も大きかった方略

に着目。

方略の頻度分布 (Syntactic strategy)

方略数の合計



意識では、G12 (Omission) の操作が多く行われていた。

意識の事例 G12 (Omission)

G12・・・素朴訳にある自立的文法要素を適訳で訳出しないこと。

原文： Travel health providers should be aware of these recommendations, even though they may not follow them in every instance.

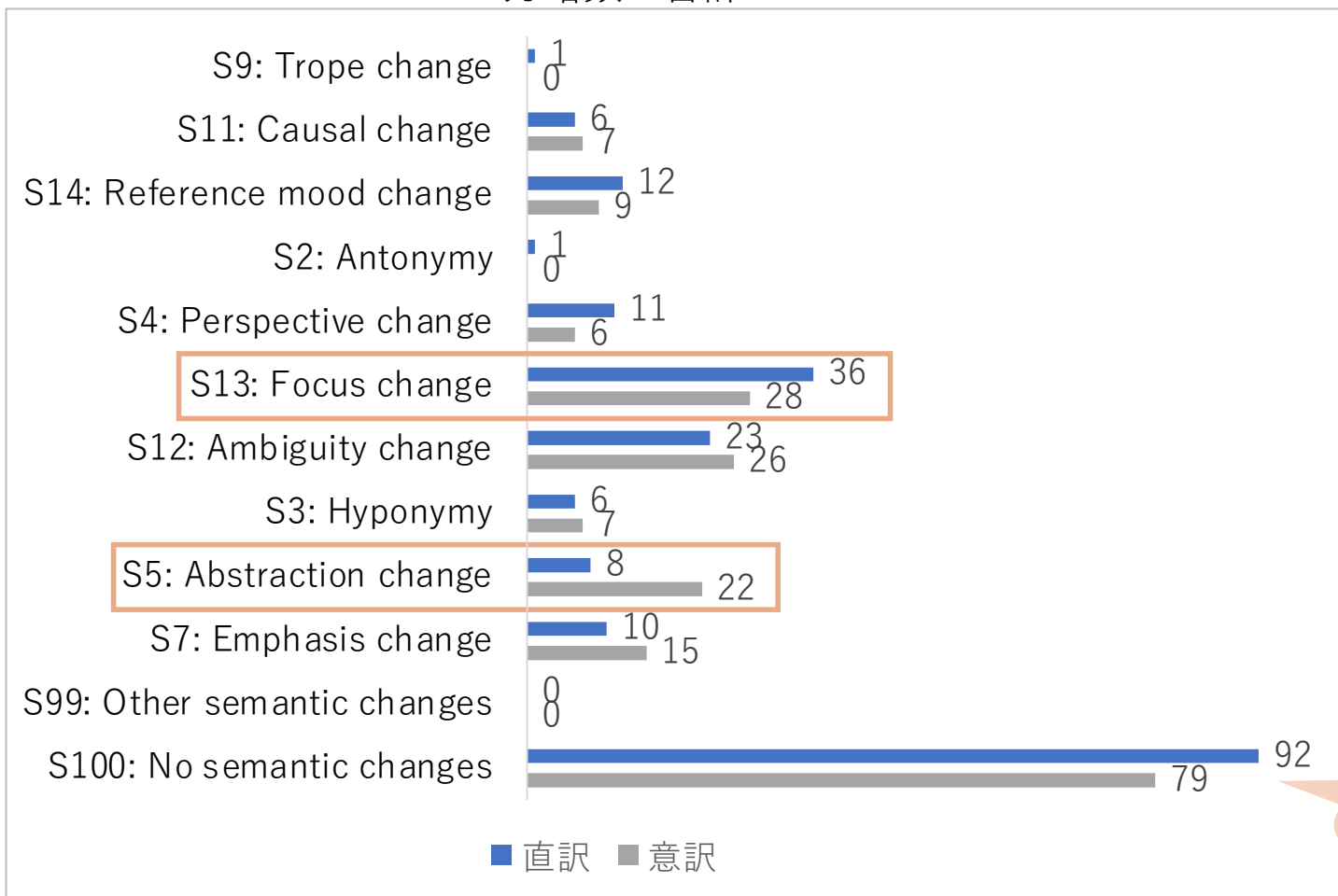
素朴訳： 渡航医療提供者は、彼らがすべてのケースでそれらに従わないかもしれないが、これらの推奨事項を把握しておくべきである。

適訳： 渡航医学の医療提供者は、このような勧告にすべての事例で従わないかもしれないが、勧告の内容は把握するべきである。

意識では、文脈から自明に理解される要素は削除されることが多い。

方略の頻度分布 (Semantic strategy)

方略数の合計



直訳では、S13 (Focus change) の操作が多く行われていた。

意訳では、S5 (Abstraction change) の操作が多く行われていた。

意味論的な変更なしなので対象外

直訳の事例 S13 (Focus change)

S13・・・素朴訳と適訳で意味の焦点そのものや焦点の当て方を変えること。

原文：Manufacturers and importers should use good engineering judgment before they market and sell these products, to minimize possible interference.

素朴訳：製造業者および輸入業者はこれらの製品を市場に出して販売する前に適切な技術的判断を下し、
起こり得る干渉を最小限にするべきである。

適訳：製造業者および輸入業者は、これらの製品を上市して販売する前に適切な技術的判断を下し、
干渉が発生する可能性を最小化するべきである。

直訳といえども、焦点を変更する書き換えは多く行われる。

意識の事例 S5 (Abstraction change)

S5・・・素朴訳の意味を適訳でより具体的あるいはより抽象的に訳出すること。

原文： Numerous international, national, and professional organizations publish guidelines and recommendations for travelers, including the CDC Yellow Book.

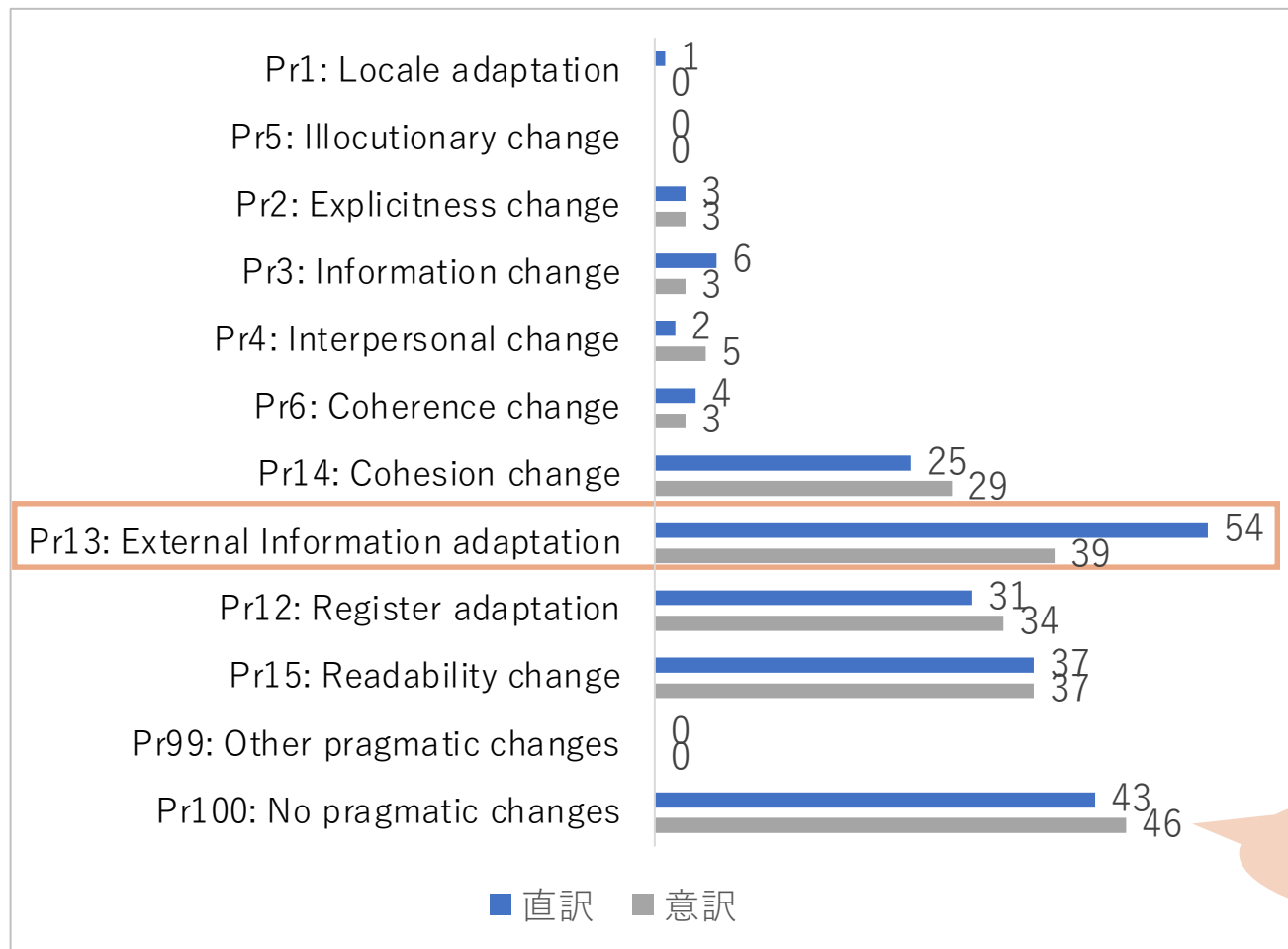
素朴訳： CDCイエローブックを含み、数多くの国際、国内、専門機関が渡航者向けのガイドラインや推奨事項を出版しています。

適訳： 多くの米国内外の団体や専門的な団体が海外渡航者を対象とするCDC Yellow Bookなどのガイドラインや推奨事項を発行している。

意識という仕様を満たすためには、
原文から離れた訳にすることで意味をより具体的／抽象的に表すことが多い。

方略の頻度分布 (Pragmatic strategy)

方略数の合計



Pr13 (External Information adaptation) に差が出ているが、これは用語集やスタイルガイドによる指示をしていなかったことに起因するものであり、直訳・意訳の仕様に起因する書き換えではないと考える。指示があれば統制できたはずの書き換えの分析は今後の課題とする。

直訳・意訳間で特徴的な差が出た方略はなかった。

語用論的な変更なしなので対象外

まとめ

プロ翻訳者が「直訳」「意訳」という指示を受けて作成する訳文はどのように異なるのかを、英日翻訳方略体系を使用して分析した。

全書き換え事例数

完成度の高い「直訳」を作成するには素朴訳に対して多くの書き換えがなされており、その数は「意訳」を超えることもある。

方略の頻度分布

Syntactic strategy . . . 意訳時にG12 (Omission) の操作が多かった。

Semantic strategy . . . 直訳時にS13 (Focus change) 、意訳時にS5 (Abstraction change) の操作が多かった。

Pragmatic strategy . . . 特徴的な差はなかった。

今後

- 分野ごとに、「直訳」「意訳」複数名分、複数文書のデータを用意し、翻訳者間の比較も行う。
→ 文書ごとや翻訳者間の解釈の揺れを観察する。
- 「直訳」「意訳」以外の主観評価表現についても分析する。
例) わかりやすい、読みやすい、自然、わかりにくい、簡潔、不自然、など。

引用文献・参考文献

豊島知穂, 藤田篤, 田辺希久子, 影浦峽, Anthony Hartley (2016).

『校閲カテゴリ体系に基づく翻訳学習者の誤り傾向の分析.』 通訳翻訳研究への招待, Vol. 16, pp. 47–65, 2016.

西野竜太郎, 新田順也, 山本真佑花, 藤田篤, 大西菜奈美, 山田優 (2021).

『翻訳の主観評価で用いられる表現.』 言語処理学会第27回年次大会発表論文集, pp. 919–923, 2021.

山本真佑花, 藤田篤, 影浦峽 (2023a).

『メタ言語としての英日翻訳方略体系の洗練と検証.』 日本通訳翻訳学会第24回年次大会, p. 25, 2023.

山本真佑花, 藤田篤, 影浦峽 (2023b).

『メタ言語としての英日翻訳方略体系の洗練－実事例と複数人の合議に基づいて－.』 通訳翻訳研究, Vol. 23, 2023.
(採択済)

まとめ

プロ翻訳者が「直訳」「意訳」という指示を受けて作成する訳文はどのように異なるのかを、英日翻訳方略体系を使用して分析した。

全書き換え事例数

完成度の高い「直訳」を作成するには素朴訳に対して多くの書き換えがなされており、その数は「意訳」を超えることもある。

方略の頻度分布

Syntactic strategy . . . 意訳時にG12 (Omission) の操作が多かった。

Semantic strategy . . . 直訳時にS13 (Focus change) 、意訳時にS5 (Abstraction change) の操作が多かった。

Pragmatic strategy . . . 特徴的な差はなかった。